

アートプロジェクト実践報告

～平成 29、30 年度「ワクワクアート アーティストがやってきた！」を振り返る～

川手めぐみ

I はじめに

近年、アートを地域活性化に活用するため、国内外からアーティストを招聘し、地域の自然や歴史・文化等をもとに作られた作品を展示・公開して人を呼び込む活動が全国各地で展開されている。平成 29 年には、それまでの文化芸術振興基本法（13 年制定）から文化芸術基本法に改められ、「文化芸術に関する施策の進行に当たっては、居住する地域にかかわらず等しく文化芸術を鑑賞、参加、創造することができるような環境の整備を図ること」や、「文化芸術が観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との有機的な連携が図られるよう配慮されなければならない」こと等が明記されている。また、宮崎県では、平成 23 年策定の「宮崎県総合計画～未来みやざき創造プラン～」¹の中に、「文化に触れる機会の充実」として、県民が文化活動を活発に行うため、体験型事業の充実や、学校や文化団体との連携を図ることが謳われている。

以上のような背景のもと、当館でも「旅する美術館」（県内の市町村で開催する県立美術館の収蔵作品展）や、「移動鑑賞教室」（映像による鑑賞番組及び作品の実物数点を学校に持参して行う鑑賞教室）、本稿で取り上げるアートプロジェクト²等、文化施設から離れた地域の方々が、身近なところで文化に親しむための事業を行ってきた。

本稿では、これらアウトリーチ事業の一環として行った、平成 29、30 年度のアートプロジェクト「ワクワクアート アーティストがやってきた！」（以下「ワクワクアート」）について、計画から開催までの実際について報告する。

II 当館におけるこれまでのアートプロジェクト

宮崎県立美術館では、開館した翌年の平成 8 年度から、アーティスト招聘事業を継続して行っている（表 1）。普段は見ることができない制作の現場を紹介する公開制作の他、フリートーク等のアーティストと県民との交流の場の設定や、アーティストによるワークショップ等も積極的に行っ

¹ 宮崎県、「未来みやざき創造プラン」、2011、102 頁、（令和 2 年 3 月現在は令和元年度版に改訂）

<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/sogoseisaku/kense/kekaku/sogokeikakurikaitei.html>

² 美術作家と直接ふれあいながら、その制作過程を見学したり、活動に参加したりして、市民がアートに親しむ機会の一層の充実を図るとともに、アートを通じて様々な地域社会の課題へアプローチすること等を目的とした文化活動を、当館ではアートプロジェクトと呼んでいる。

てきた。当初は美術館内で実施する内容が多かったが、徐々に活動の場を地域の学校や県内各地へと広げていった。

表 1 宮崎県立美術館におけるアートプロジェクト

掲載している情報はすべて当時のもの

| 年度 | 名称 | 内容 | 期日 | 場所 | 作家 |
|----|-------------------------------------|--------------------------|--|--|-------------------------------------|
| 30 | 「ワクワクアート アーティストがやってきた！」 | アートトーク&ワークショップ1 | 10月8日 | 小林市文化会館 | 曾谷朝絵(アーティスト) |
| | | 公開制作 | 10月9日・10日 | | |
| | | オープニングセレモニー &ワークショップ2 | 10月11日～13日 | | |
| | | アートトーク(お披露目会) | 10月14日 | | |
| 29 | 「ワクワクアート アーティストがやってきた！」 | ワークショップ1 | 9月15日 | 日向市 東郷町 スマイルホーム360 | 谷山恭子(現代美術作家) |
| | | 公開制作及びワークショップ2 | 11月17日・19日～22日 | | |
| | | 講演会 | 11月18日 | | |
| | | アートトーク(お披露目会) | 11月23日 | | |
| 28 | 「わがまち」いきいきアートプロジェクト ココニ・ココカラ | 公開制作 | 7月19日～21日、7月27日～31日、8月7日～11日、8月14日～21日 | 高原町 (1)皇子原公園 (2)下後川内多目的集会所 施設周辺 | 又木啓子(美術家) 松下太紀(造形作家) |
| | | トークセッション | 9月30日 | | |
| | | 作品展示 | 9月1日～9月30日 | | |
| 27 | 「わがまち」いきいきアートプロジェクト たこらさるく | 公開制作 | 9月9日～13日、19日～23日、10月2日～4日、10月9日～12日、10月17日～20日 | 西米良村 竹原地区 | 大野匠(彫刻家) 小河孝浩(写真家) 杉原木三(鍍金作家) |
| | | アートあそび体験 | 10月12日 | | |
| | | フリートーク鑑賞会 | 11月3日 | | |
| | | 作品展示 | 11月1日～11月30日 | | |
| 26 | 「わがまち」いきいきアートプロジェクト 小さな町の 大きな美術館 | 公開制作 | 9月20日～9月26日 10月4日～10月13日 10月18日～10月21日 | 日之影町 鹿川地区 | 鬼塚良昭(彫刻家) 大野匠(彫刻家) |
| | | ワークショップ | 10月12日 ※台風のため中止 | | |
| | | トークセッション | 11月2日 | | |
| | | 制作物展示 | 11月1日～11月30日 | | |
| 25 | みやざきアートプロジェクト 木村崇人と 宮崎で地球と遊ぶ | 地域ワークショップ | 9月12・14・16・21・22日 | 日南市日南海岸各地 | 木村崇人(現代美術作家) |
| | | 公開制作 | 9月27日～9月29日 | 宮崎県立美術館 | |
| | | アーティストトーク | 9月29日 | | |
| | | 作品展示 | 10月1日～10月27日 | | |
| 24 | みやざきアートプロジェクト 植物になった白線 @みやざき | ワークショップ | 9月22日～9月25日 9月29日～10月2日 10月6日～10月8日 | 都城市立美術館 延岡総合文化センター 高鍋町中央公民館 | 浅井裕介(アーティスト) |
| | | 公開制作 | 10月13・14日、11月17日 | 宮崎県立美術館 | |
| | | トークセッション | 10月14日 | | |
| | | 活動記録・作品展示 | 10月16日～11月18日 | | |
| 22 | アーティスト・キャンプ (大巻伸嗣) | 学校訪問ワークショップ | 10月7日 | 美郷町立田代小学校 | 大巻伸嗣(現代美術家) |
| | | | 10月8日 | 日南市立油津中学校 | |
| | | アーティストトーク | 10月10日 | 宮崎県立美術館 | |
| | | 公開制作 | 10月14日～17日・21日～24日・29日～30日 | | |
| | | 作品展示 | 10月31日～12月12日 | | |
| 20 | アーティスト・キャンプ (青木野枝) | ワークショップ | 11月20・21日 | 宮崎県立美術館 | 青木野枝(彫刻家) |
| | | 公開制作(作家とのフリートーク) | 10月1日～4日・10日～13日・18・19・25・26日 | | |
| | | 参考作品展示 | 10月1日～11月9日 | | |
| | | アーティストトーク | 10月5日 | | |
| 18 | 戸谷成雄による 公開制作 | 公開制作 | 12月5日～12月10日 | 宮崎県立美術館 | 戸谷成雄(彫刻家) |
| | | 作品解説 | 12月5・10日 | | |
| | | アーティストトーク | 12月6日～12月9日 | | |
| 16 | 公開制作 | 公開制作 | 6月16・17・19・20日 | 宮崎県立美術館 | 横尾忠則(美術家) |
| 14 | 日比野克彦による 公開制作 | 公開制作 | 11月22・30日、12月1日 | 宮崎県立美術館 | 日比野克彦(アーティスト) |
| | | | 11月27日 | 高千穂町 自然休養村 | |
| | | | 11月28日 | 日向市文化交流センター | |
| | | | 11月29日 | 南郷町 目井津漁港 | |
| 12 | 絹谷幸二公開制作 アフレスコ画 | 公開制作 | 5月9日～5月14日 | 宮崎県立美術館 | 絹谷幸二(画家) |
| 10 | 公開制作'98 | 公開制作 | 6月16日～6月21日 | 宮崎県立美術館 | 襲嘯(美術家) |
| | | 作家とのフリートーク | 6月21日 | | |
| 8 | 公開制作'97 | 公開制作 | 平成9年 2月11・13・15・16日 | 宮崎県立美術館 | 中林忠良(版画家) |

平成26年度からは、「『わがまち』いきいきアートプロジェクト」として、県内在住の複数のアーティストが、中山間地域を拠点に、地場資源を活用した地域密着型の公開制作を行った。取材や準備、制作を含めた約1か月に及ぶ滞在期間中に、アーティストと地域住民とがより深く触れ合うことができ、完成作品も各地域で愛着をもって受け継がれる等一定の成果を上げた。一方で、滞在

が長期にわたるため、作家やスタッフの調整が困難なことや、会場までの距離があるため児童生徒が参加しづらい等の課題も出てきた。

その後継事業として平成 29、30 年度に新たに実施したのが、「ワクワクアート アーティストがやってきた！」である。次に開催の要旨を記す。

Ⅲ ワクワクアート開催要旨

(1)事業名 「ワクワクアート アーティストがやってきた！」

(2)目的 県民が文化芸術に親しむ機会のより一層の充実と、アートを通じた地域活性化を図る。

(3)内容

- ①注目度が高く、幅広い年代に共感を得る表現やワークショップ的な活動にも取り組める気鋭の美術作家を招聘し、児童生徒が参加しやすい学校・公共施設・商店街等を拠点として、保護者や地域内外の人を引き込みながら創作活動を行う。
- ②開催地区に作家が 1 週間程度滞在して、公開制作やワークショップを行う。期間中、誰でも自由に見学できるものとする。
- ③開催地区と県立美術館相互の人の流れを創出するため、作家による講演会等を県立美術館で実施する。

(4)参加料 すべて無料

(5)活動場所

開催地区から提案された学校や学校近隣の公共施設、商店街等の場所を候補として作家と共に視察を行い、協議の上決定する。決定した場所に合わせて作家が作品の構想を練り、作品制作を行う。

(6)期待される事業効果

①文化芸術の振興

作家と児童生徒や地域内外の人、行政等が交流・連携・協同して創作活動を行うことで、地域の方が文化芸術をより身近なものとして実感できるとともに、地域の文化活動を継承・推進する体制や風土を生み出すことができる。

②地域活性化への寄与

著名な作家を招聘してマスコミとのタイアップを図り、活動内容や地域の魅力を広く発信する。また、作品にちなんだ行事を開催したり、県内外からの鑑賞者を誘致したりすることで、新たな文化資源を活用した地域作りや観光に寄与することができる。

IV 平成 29 年度ワクワクアートの実際

1. 作家(谷山恭子氏)について

開催趣旨をもとに全国の作家をリサーチし、パブリックアートやアートプロジェクトの実績に注目して、谷山恭子氏を招聘した。

谷山氏は、地域の特徴をふまえて作品の素材や設置する場所までを着想し、まわりの空間をも取り込んだ幅広い作品をつくるアーティストで、公開制作やワークショップの経験も豊富である。また、海外でも活動しているため、日本や地域の文化について諸外国と比較してとらえることができると期待した。さらに、地域住民からその土地の歴史や文化について聞き取り、情報を集めて制作に生かすという手法が、ワクワクアートのねらいに沿っており、招聘作家として適任であった。



図 1: 谷山恭子氏 Photo: 川瀬一絵

〈作家略歴〉 谷山恭子 (たにやまきょうこ・現代美術作家)

1997 年、武蔵野美術大学造形学部大学院修了。地域特有の歴史・生活・人々との出会いを生かしたアートプロジェクトやインスタレーション、パブリックアートを手がける。

2012 年 “I’m here. ここにいるよ” ART SETOUCHI COLLECTION (香川県高松市民プール改修)、2014 年 “ミーツ・アート-森の玉手箱” (箱根彫刻の森美術館)、2015 年 “雲の向こうに - Beyond the Clouds” (越後妻有里山現代美術館〔キナレ〕) 等に参加。2017 年にはドイツ、台湾、広島でもプロジェクトを手がける。美術館展示、ワークショップ等参加多数。ベルリン在住。



図 2: 越後妻有里山現代美術館〔キナレ〕
2015「熱際」

2. 開催までの準備とその経過

(1) 開催会場決定 (平成 29 年 5~6 月)

作品を地域に残して文化的資料として活用できることが前提であるため、開催地の条件は大切である。アートを気軽に楽しむことに重点を置きながらも、5~10 年という比較的長期のスパンで作品を大切に保存し、地域活性化に生かすことができる場所を選定しなくてはならない。全県下の自治体にアンケートを行い、開催地としてアーティストと作品を受け入れることや、開催期間中の協力に前向きな自治体を募集した。その際、より多くの県民の方にアートを身近に感じてもらえる機会とするため、これまでにアートプロジェクトに参加したことがある地域や、当館の所在地である宮崎市は除外した。視察を複数行った結果、地域活性化に積極的で、施設の有効活用を望む日向

市総合政策課と連携して事業を進めることとなった。開催会場は、廃校になった旧福瀬小学校を改装し、障がい者就労支援施設として活用されている「スマイルホーム 360」³(図3)に決定した。

地域住民を中心とした人々の交流が見込めること、施設内の制作物設置や、校舎壁面の利用が可能なこと等から総合的に判断した。中でも、「この場所が新しい芸術文化の拠点となり、地域の方々に愛され、障がいの有無にかかわらず様々な人が集える新たなネットワークの拠点となって欲しい」という施設関係者の熱意が決め手となった。



図 3:スマイルホーム 360 玄関

なお、旧校舎の壁面に巨大アートを設置するにあたり、日向市に許可申請を行った。建築法上の問題がないことを確かめた上で、安全に配慮しつつ制作を進めることとなった。

(2)作家アトリエ訪問 (6月)

作家のアトリエを訪問し、改めて事業についての説明を行った。谷山氏は海外でも活躍されており、それまでの連絡はメールや電話のみであった。そのため、直接会話ができるアトリエ訪問は、作家の人柄やアーティストとしてのこだわりを知ることができる大変貴重な機会となった。谷山氏は、すでにインターネット等で日向市についての情報を収集されており、作品制作やワークショップの具体的なアイデアも活発に交換することができた。

(3)現地視察(7月)

「町の人との交流や公開制作をした上で、作品を恒久設置するとなると、町の雰囲気を感じて理解する時間が必要」という谷山氏からの提案もあり、町の特徴・歴史・特産物等の情報を得て、現地の人にとけ込むための視察を行うことになった。会場となるスマイルホーム 360の方や地域の自治会長の話を聞き、日向市の歴史や文化を感じることができる場所を中心に視察を行った。



図 4:スマイルホーム 360 施設長と話す谷山氏

視察を通して練られた今回の作品のコンセプトは、以下のとおりである。

- ①作品は、地域のランドマークとして長く残せるものとする。
- ②地域の人々のアイデアをデザインに取り入れた大型オブジェを施設の壁面に設置し、ツルの伸びる植物(花・野菜等)をつたわせて栽培することができるアート作品を制作する。

³ 第2次日向市総合計画の重点戦略「活力を生み出すにぎわいづくり戦略」において、日向市が「NPO法人日向手をつなぐ育成会」に地域内の廃校舎を無償で貸与し、障がい者の就労支援事業の拠点とした施設。旧校舎内に、コミュニティブックカフェ、個展やワークショップを行える多目的のルームを備えている。

③花や野菜の栽培や収穫等を通じて、継続して人の集まる場所となることを願い、施設や地域の活性化につなげる。

(4)市長表敬訪問（9月）

日向市長を表敬訪問し、事業全体の概要と実施予定のワークショップの説明を行った。また、公開制作については、開催会場であるスマイルホーム360の方や地区自治会長とも打合せ、夜には地区説明会も実施した。



図 5:市長表敬訪問の様子

(5)【ワークショップ1】 9月15日(金) 10:00~11:30

日向市東郷町福瀬地区公民館にて、東郷小学校(東郷学園)の児童・スマイルホーム360の利用者・地区住民が参加し、公開制作作品の原画となる絵を描いた。

はじめに、谷山氏がワークショップの説明を行い、福瀬地区にちなんだ動物や自然の写真を提示した。参加者は、提示された写真をもとにしたり、想像をふくらませたりしながら思い思いに表現をしていた。中には絵が得意でないという参加者もいたが、谷山氏の声かけにより、自分なりのイメージを描き、でき上がりに満足していた。



図 6:ワークショップの様子1



図 7:ワークショップの様子2

このワークショップでは、毎年、東南アジアから福瀬地区に渡来するアオバズク（ふくろう）を描く人が多かった。そのため、谷山氏はこれを地区の象徴だと感じてメインテーマとし、“アオバズクの森”をテーマとした壁面アートを制作することに決定した。

(6)地域活性化のための工夫(日向市による)

事業終了後も会場や地域への来訪者を増やすための手立てについて、日向市総合政策課とともに検討した。実践したアイデアは以下のとおりである。

- ①公開制作オープニング当日に配付する資料（日向市作成）に、東郷町福瀬地区（祭り・こども神楽・神社・アオバズク等）のこゝと、スマイルホーム360のこゝとを詳しく記載する。
- ②会場に、スマイルホーム360の利用者の作品や販売コーナー等を設ける。
- ③福瀬地区を知ってもらうため、神楽やアオバズクの写真パネル展示する。
- ④配付資料に、施設内のカフェ（スマイルホーム360内の憩いの場である「ブックカフェ」）で利用できるコーヒーチケットを添付する。また、地元情報誌に広告を出す。（日向市およびスマイルホーム360中心で企画）

⑤ワークショップへの来場促進のため、学校や児童施設・老人施設・婦人会・公民館活動団体等に参加希望をとって、平日の参加申込を募る。(日向市主導、当館も対応)

⑥スマイルホーム 360 でもホームページやフェイスブックを活用して発信する。

更に、「ブックカフェ」でのランチ提供や物品販売も併せて行った。

(7)作家と地域とのふれあい

地域を知り、とけ込みたいという考えから、谷山氏は、事業開始前から会場のスマイルホーム 360 に宿泊し、利用者や保護者、地域住民との交流をもった。また、地域の祭りにも参加することで、ワクワクアートへの来場を促すPRもできた。

あらゆる場面をとらえて地域の人々と交流しようとする作家の姿勢が、多くの地域住民や関係者から作品が受け入れられることにつながった。



図 8: 地域の神楽まつりに参加する谷山氏

(8)作品施工について

今回の作品は、高さ約 11m×幅約 8mの金属製の大型オブジェであることから、専門の技術をもった施工業者への依頼が必要であった。地元へ貢献したいとの谷山氏の配慮により、日向市内の工務店に協力を依頼することになった。通常の金属加工ではなく、独特の細工が必要だったが、地元工務店のベテラン職人が引き受けてくれたことで、作家のアイデアを実現することができた。



図 9: 地元工務店による金属加工製作

3. 活動の実際

(1)【オープニングセレモニー・公開制作・ワークショップ 2】11月17日(金) 10:00～16:00

開催会場施設長、県立美術館長等の関係者によるオープニングセレモニーを行った。谷山氏からは、「このアート作品の下に、ネットを張って植物を植え、収穫祭等を楽しんでほしい」「地域のランドマークとして、地域の皆さんが交流する場になる事を期待している」等の思いが語られた。



図 10: オープニングセレモニー

(2)【講演会】 11月18日(土) 13:30～15:00

「地域が元気になるアートの力」と題して、当館にて講演会を行った。参加者同士で「思い出に残るふるさとの風景」について語り合う等、参加型の講演会であり、温かな雰囲気の中、地域やアートについて考えることのできる機会となった。

日向市からバスが手配されたこともあり、スマイルホーム360のある福瀬地区からも20名程度が参加した。中には、初めて県立美術館を訪れたと語る参加者の姿もあった。



図 11:講演会の様子

(3)【公開制作・ワークショップ2】 11月19日(日) ～23日(木) 10:00～16:00

ワークショップでは、大きな布に好きな形のスタンプを押してカラフルに彩り、旧校舎の掲揚台に掲げる旗を作った。スタンプは、谷山氏の手作りによるものの他、参加者が自分で好きな形のものを作ることもできるようにした。初日はテレビの取材があり、谷山氏や参加者へのインタビューに加え、アナウンサーが実際にスタンプ作りをする等、1日かけての取材となった。地域の子供たちや親子連れ、福瀬小学校の卒業生等が参加して、ワークショップは賑わいを見せた。



図 12:スタンプを押す施設利用者



図 13:スタンプを押す子どもたち

(4)【お披露目会・アートトーク】 11月23日(木)13:30～14:30

完成した作品「アオバズクの森」のお披露目会及びアートトークを実施した。スマイルホーム360の利用者家族・地域の方・日向市の関係者等、多くの方が来場した。お披露目会では、谷山氏が作品についての説明を行った後、ワークショップで作成した旗を会場の掲揚台に掲げて記念撮影を行った。アートトークでは、全員でスマイルホーム360の施設内に入り、公開制作やワークショップの写真を見ながら、谷山氏から制作にまつわる話を聞いた。原画を描いた小学生へのインタビューをはじめ、関係者の作品に込めた思いを聞き、参加者全員で作品完成の喜びを共有した。



■手作りの旗を掲げる参加者

■旗の前で記念写真

■原画を描いた小学生

■室内でアートトーク

■あいさつする谷山氏

■完成作品の前で記念写真

図 14 お披露目会の様子

4. 平成 29 年度ワクワクアートを振り返って

(1) 来場者実績

| 内 容 | 期 日 | 人 数 |
|-----------------|------------------------------|-------|
| ワークショップ 1 | 9 月 15 日(金) | 45 名 |
| 公開制作及びワークショップ 2 | 11 月 17 日(金)・19 日(日)～22 日(水) | 126 名 |
| 講演会 | 11 月 18 日(土) | 72 名 |
| アートトーク(お披露目会) | 11 月 23 日(木・祝) | 117 名 |
| | 合計(延べ人数) | 360 名 |

(2) 来場者の感想(抜粋)

- ・スタンプを押して行って、素敵なアートになることに驚きです。もっとたくさんの人を連れてくれば良かった！！と思いました。
- ・とても子どもたちが楽しんでいました！！自分で作ったハンコもうれしそうでした。
- ・70 歳です。童心にかえり楽しく動くことができました。
- ・自分の卒業した学校がこの様な作品でかざられる事、とても感動です。
- ・スタッフの方々の熱意に感動！！(当校の卒業生としてとても嬉しかったです。)
- ・色んな子どもたちの作品や、子どもの喜ぶ顔を見て、心に残る 1 日になれて嬉しかったです。とても個性があってステキな作品でした。
- ・美術館までは遠いので近くで体験できて良かったです。
- ・初めての参加です！！ワクワクするようなアートに出会えたと思います。
- ・夢中になれる。外(自然の中)でできたことが良かった。
- ・もう少し宣伝等をして参加人数が増えたらと思います。
- ・色んな方の協力があってできた作品に、あたたかさや絆を感じました。

(3)成果

谷山氏が地域の人々と触れ合う機会を設け、積極的に地域にとけ込んだことや、日向市・スマイルホーム 360 の職員の方・福瀬地区住民・業者の方も含め、事業に関わったすべての方の協力により、公開制作や関連行事をスムーズに進めることができた。また、作家の意向により、地域の方の作品を原画として採用したり、地元の業者との協力で作品制作を進めたりする等、多くの住民が直接作品に関わる機会を設けたことで、作品に対する愛着が生まれ、これまであまりアートに関心がなかった地域住民が、美術館へも足を運ぶ機会を作ることができた。

会場であるスマイルホーム 360 では、施設見学に「アオバズクの森」ツアーを盛り込むことや、完成作品の下に花壇を作って植物を植える計画も話し合われ、事業終了後も人々が交流し、地域の活性化につながるための手立てとして作品が活用されることになった。

なお、作家の編集により「アオバズクの森」と題した活動紹介の小冊子（図 16）が作成され、開催地と美術館でそれぞれ活用されることとなったことも付記しておく。



図 15:完成した「アオバズクの森」素材 金属、鉄パイプ等



図 16: 谷山氏による小冊子表紙

(4)課題

自治体の予算確保や協力体制作りのために、可能な限り早く開催地選定を行う必要があり、選定に当たっては、県内外からの鑑賞者・参加者誘致のため、交通アクセスの良さについても配慮することが求められる。

また、本事業の完成披露当日が近隣地区開催の伝統的行事（高千穂夜神楽）の初日と重なったため、マスコミの注目度があまり高くなかったこと等から、県内各種イベントを考慮した開催日の選定と、県内外へ周知を図り、参加者を増やすための効果的な広報を工夫していくことが今後の課題である。

V 平成 30 年度ワクワクアートの実際

1. 作家(曾谷朝絵氏)について

作家のリサーチについては、平成 29 年度と同じ条件で進めた。

曾谷朝絵氏は、東京藝術大学大学院在学中から現代絵画界で注目を浴び、現在も変わらず美術ファンを魅了している。油絵の制作のみならず、インスタレーションやパブリックアートにも力を発揮し、国内はもちろん海外でも活躍する人気の作家である。曾谷氏の得意とする制作技法（フィルムワーク）はガラス面を利用するため、開催会場の選定の幅を広げることができ、その光に満ちた表現は本県の



図 17: 曾谷朝絵氏 Photo: Yasuyuki Kasagi

気候風土と相性が良く、効果的と思われる。さらに、現代美術作家として様々なメディアへの訴求力が高いことや、多くの美術ファンをもち、ワークショップの経験も豊富であること等から、ワクワクアートの作家として招聘した。

〈作家略歴〉 曾谷 朝絵（そや あさえ・アーティスト）

2006 年、東京藝術大学大学院にて博士（美術）取得。絵画とインスタレーションの両面で制作を続けている。光と色彩に満ちあふれた作品はダイナミックで現代的な感覚を持ち、観る者の視覚を越えて身体感覚を呼び起こす。

2001 年「昭和シェル石油現代美術賞」グランプリ、2002 年「VOCA 展 2002」VOCA 賞（グランプリ）、2013 年「横浜文化賞文化・芸術奨励賞」、「神奈川文化未来賞」他、受賞多数。水戸芸術館にて大規模な個展を開催した他、セゾン現代美術館、国立新美術館、府中市美術館等で展示。2014 年に文化庁在外研修員としてニューヨークで滞在制作。

2018 年に TOKAS 二国間交流事業プログラム派遣クリエイターとしてバーゼルにて滞在制作及び個展を開催する等国内外で活動。



図 18: 鳴る色 2017 越後妻有里山現代美術館
photo: Osamu Nakamura

2. 開催までの準備とその経過

(1) 作家アトリエ訪問（平成 30 年 1～2 月）

前回の反省から事業準備を早めに進め、開催前年度中にアトリエを訪問することができた。昨年度と同じく作家は海外でも活躍中であったが、直接会って事業について打合せを行うことができた。

併せて、曾谷氏が東京都豊州地区の再開発に伴って制作したパブリックアート「風の色」を視察する他、油彩作品を収蔵している東京ステーションギャラリーや画廊等に伺い、多くの作品に触れることができた。また、曾谷氏のインスタレーション作品を施工する業者（中川ケミカル）から、材料準備や完成までの手順等についての情報も得られた。



図 19: 曾谷氏アトリエ



図 20: パブリックアート「風の色」

(2) 開催会場決定（平成 30 年 3～5 月）

「ワクワクアート」事業に関するアンケートを県内の自治体（昨年度実施した日向市と当館のある宮崎市を除く）に実施し、回答のあった中から候補地を 2 つに絞った。その後作家と共に、それぞれの現地訪問や調査を行った。様々な素材の活用や設置場所、地元作家とのコラボレーション等を模索し、予算や施設保守の面など諸条件を勘案して精査した結果、以下の理由により小林市文化会館に会場を決定した。

- ① 駅の近くで交通の便が良い。
- ② 建物はガラス面が広く、開放的で、曾谷氏のガラスワークを生かせる。
- ③ ワークショップの場所が広くとれる。
- ④ 会場施設に作品の恒久展示が可能である。
- ⑤ コンサートや発表会による、人の交流が期待できる。



図 21: 小林市文化会館 1 階ホール

(3) 準備・打合せ（6 月～7 月）

以前曾谷氏がワークショップを行った高松市美術館を訪問し、実施状況の調査を行った。その中で、インスタレーションを実施するには美術館内の映像機器だけでは不足するため、新たに機材を購入して対応したことが明らかになった。その後、作家と施工業者との打ち合わせを行い、日中だけでなく夜間も作品を鑑賞できるよう、作品公開時間を日没前後に設定した。事業の趣旨に賛

同いただいた地元企業の協力もあり、美術館・小林市共に照明器具を設置して夜間のライトアップ鑑賞を行うことになった。

(4) 小林市への表敬訪問と現地視察（8月）

開催内容説明と挨拶を兼ねて小林市長を表敬訪問し、本事業の紹介、曾谷氏のプロフィール紹介、広報依頼等を行った。

現地視察では、作家に小林市の自然の美しさに触れてもらうことができた。滝や吊り橋、チョウザメや鯉の泳ぐ姿等を見ながら、開催地小林や宮崎の自然を生かした作品へのイメージが生み出され、小林市文化会館のエントランスホールガラス面に、曾谷氏がデザインしたカラーシートを貼り、自然光と色彩が響き合う作品を制作することが決定した。また、地域の参加者に曾谷氏デザインのカラーシートを貼ってもらい、共同してインスタレーション作品を完成させるワークショップを行うことも決まった。



図 22: 市長表敬訪問



図 23: 小林市 出の山公園にて

3. 活動の実際

(1)【アートトーク&ワークショップ 1】 10月8日(月・祝) 16:30~18:00

宮崎県立美術館1階アートホールにて、アートトークを行った。アートトークでは、曾谷氏のこれまでの活動や、自身の作品を制作する際の発想の源等が紹介された。参加者は、メモを取る等熱心に話を聞いていた。



図 24: アートトークをする曾谷氏

その後、参加者が作家と共に、美術館1階エントランスホールのガラス面にカラーシートを貼るワークショップを行った（図 25）。

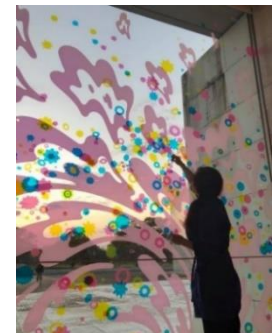
参加者は、ガラス面にあらかじめ貼られた曾谷氏のカラーシートをもとに、水しぶきをイメージしながら思い思いにシートを足していった。



■ワークショップ参加者



■1階エントランスにて



■シートを調整する曾谷氏

図 25: 県立美術館におけるアートトーク&ワークショップの様子

光と色彩が響き合うインスタレーションの制作体験を通して、全員で一緒に作品を創る喜びを味わった。カラーシールは約 2700 枚用意されていたが、一枚も残さず使い切る盛況ぶりであった。ワークショップ後半には、ガラス面を通して美術館内に夕陽が差し込み、作品の見え方が美しく変化していく様子を味わうこともできた。

また、午後 6 時から 7 時まで、美術館内から外へ向けてライトアップし、作品鑑賞会を行った。この時間には新たな観覧者も加わり、ライトの光によってさらに変化した作品の色調や輝きを、じっくりと鑑賞していた。



■館外から撮影



■ライトアップイベント鑑賞者(館外)



■大理石に映るモチーフ

図 26: ライトアップイベントの様子

(2)【公開制作】 10 月 9 日(火)、10 日(水) 16:00~18:00

テーマは「Broken Rainbow」。小林市の澄んだ水と、強い光をイメージしたものである。光の当たる角度によって変化して見えるカラーシールを会場のガラス面に貼ることにより、水がはねて飛び散っていく様子が描かれていった(図 27)。

初日はテレビ局の取材等もあり、会場は賑わった。また、小林高校の生徒たちや近隣の住民等が制作の様子を見に訪れていた。



図 27 小林市文化会館エントランスにて施工開始

(3)【オープニングセレモニー】 10 月 11 日(木) 13:40~14:00

小林市長や県立美術館長等の関係者によるオープニングセレモニーを実施した。曾谷氏は自己紹介に加え、この後行われるワークショップの説明を行った。

その後、セレモニーの参加者たちが、会場エントランスホールのガラス面に水しぶきの形のカラーシールを貼るデ



図 28: ワークショップデモンストレーション開始

モンストレーションを行った。地域の高校生や園児等も参加し、この後の行事への期待感が高まるセレモニーとなった。

(4)【ワークショップ 2】 10月11日(木)～13日(土) 14:00～18:00

小林市文化会館エントランスホールにて、参加者が作家と共に、ガラス面にカラーシールを貼っていき、インスタレーション作品を作った。初日は、園児や小学生、高校生等の団体が重なったこともあり、特に賑わっていた。

曾谷氏は、自ら参加者の中に入って作品のイメージについて語り、質問や写真撮影等にも気軽に応じていた。参加者は、シールを貼ることによって共同で一つの作品を作ることや、アーティストとの触れ合いを楽しんでいた。



■カラーシールを貼る園児



■ワークショップの説明をする曾谷氏



■小林市立南小学校の児童と曾谷氏



■地域の親子連れも参加



■小林高校の生徒達と



■全体のバランスを調整する曾谷氏

図 29: ワークショップ 2 の様子

(5)【お披露目会・第一部】 10月14日(日) 15:45～16:30

県教育長も参加したお披露目会では、曾谷氏のこれまでの活動と今回の作品についての説明や写真撮影を行った。参加者から、「なぜアーティストになろうと思ったのですか?」「アートを好きになったきっかけは何ですか?」等の質問が出され、曾谷氏はその一つ一つに丁寧に答えていた。作家と参加者が作品や制作活動について振り返り、作品に込めた思いを共有できた。



図 30: 作品について説明を行う曾谷氏

(6)【お披露目会・第二部】 10月14日(日) 18:00～19:00

同日、夜間ライトアップイベントを行った。曾谷氏から「SNS を利用したフォトコンテストを

行っては？」との提案があり、参加者は完成作品を写した写真を投稿、曾谷氏が審査して表彰を行った。イベントを楽しむと同時に、床や天井に作品が映り込んだ幻想的な空間を十分に味わうことができていた。



図 31:完成作品とライトアップ鑑賞の様子

4. 平成 30 年度ワクワクアートを振り返って

(1)来場者実績

| 内 容 | 日 付 | 人 数 |
|---------------------------|--------------------|------|
| アートーク&ワークショップ 1 | 10月8日(月・祝) | 93名 |
| 公開制作 | 10月9日(火)、10月10日(水) | 62名 |
| オープニングセレモニー及び ワークショップ2 | 10月11日(木)~13日(土) | 343名 |
| お披露目会 | 10月14日(日) | 65名 |
| 合計(延べ人数) | | 563名 |

(2)来場者の感想(抜粋)

- ・(光が当たる) いろんな角度を気にしながらみんなで作品が作れるので、達成感が味わえた。
- ・保育園から高校生、大人までもが笑顔に包まれており、幸せの中庭に閉じ込められたような気分になりました。きっと、この「水しぶき」は水ではなく、人や動物等のはじける感情のように思います。
- ・町や市に素敵なものがまた一つできる良いイベントだと思いました。
- ・景色にも溶け込んでいて、また、色がかわってきれいで、見ていてあきさせないデザインがすばらしかった。いろんな人と1つの作品を作るというのはいいと思った。
- ・身近にアートを感じる事ができました。とても楽しかったです。
- ・自分たちで作り上げるアート…新しくとても楽しかったです。仕上がりが楽しみです。
- ・参加することで、文化会館への関心が深くなってよいと思う。
- ・時間によっては光の感覚もかわり、美しく、躍動感を感じました。また、たくさんの人が参加することにより、アートの一部を共有できる気がします。

(3)成果

昨年度の反省から、開催地の選定を早めに行い、駅に近く人が集まる場所で実施できた。開催初日には、作家によるアートトークとワークショップを組み合わせたイベントを当館で実施し、小林市の会場への案内を行ったことで、参加者増につなげることができた。また、お披露目会と、小林市文化会館の主催事業（小林市出身者及び在住者によるコンサート）が同日であったため、コンサートのチラシにワクワクアートの情報も掲載され、二重に周知を図ることもできた。加えて、曾谷氏からの提案によるフォトコンテストの開催を通して、SNSを活用してより身近にアートを楽しむ機会を提供することができた。

事業終了後も、完成作品はエントランスホールステージの背景になることから、今後多様な場面（コンサートのプレイベントや幼・保育園の卒園行事等）での活用が期待できる。会期中は、地元の美術教諭が幾度となく高校生とともに活動に参加し、生徒と作家との触れ合いも多くもたらされる等、作家をはじめ、地元の企業や業者、美術ファン等、多くの方の協力により、昨年同様、作品が今後も愛着をもって受け継がれるための基盤が作られた。

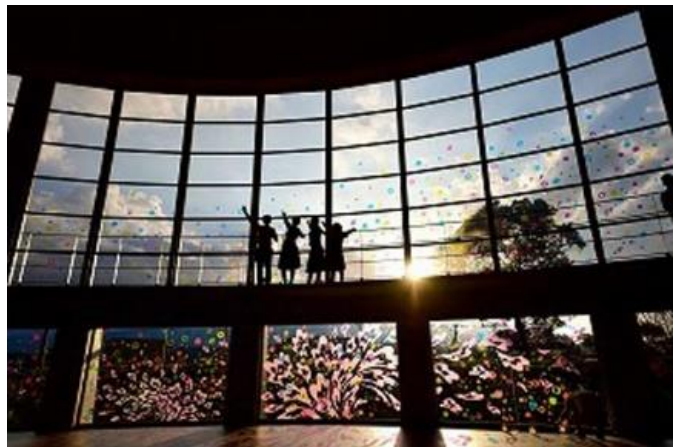


図 32:完成した「Broken Rainbow」と地域の高校生

photo: 田中風馬

(4)課題

昨年度の反省から、開催候補地や作家の早めの選定については改善できたが、事業の周知や参加者増を促すための広報については、いかに工夫し、効果的に行うかを継続して模索する必要がある。さらに、事業後の作品活用や、地域全体のアートへの取組についての追跡調査も行っていくことが今後の課題である。

VI おわりに

「ワクワクアート」の実施を通して、国内外で活躍中の経験豊富なアーティストが客観的に見た開催地の魅力を感じ取ってもらい、それをイメージした作品を地域に残すことができた。著名なアーティストと直に触れ合い、作品制作に関わることは、参加者にとって得がたい経験となる。美術館から離れた地域でも県民が美術に親しみをもち、アートを身近に感じてもらうために、ワクワクアートのようなアウトリーチ活動の果たす役割は大きく、関わった人が多ければ多いほど、その関わりが深ければ深いほど効果があると言えるのではないかな。

ワクワクアートの事業目的に、文化芸術の振興や地域活性化への寄与を謳っていたが、平成 29 年度に実施した日向市のスマイルホーム 360 では、翌 30 年 4 月にチャリティー企画の美術展が企画されたり、7 月には「アオバズクの森」の下に花壇が完成し、地域の方や作品制作に関わった方を招いた種まき会が実施されたりした（図 33）。また、平成 30 年度実施の小林市文化会館では、事業実施後の 11 月に地元広報誌で作家や作品の紹介を行い、翌年度の施設利用案内パンフレットの表紙に「Broken Rainbow」を掲載して集客を図っている（図 34）。このように、事業開催後も作品が地域の方に大切にされ、活用されることで事業の効果が広がっていく。これからも、作品を通して継続した地域活性化が図られることを期待したい。



図 33:種まき会の様子。右写真は会の当日、スマイルホーム 360 に訪れたアオバズク(ふくろう)



図 34:利用案内パンフレット(表紙)

参考文献等

宮崎県、「みやざき文化振興ビジョン」、2017

的場康子、「アウトリーチ活動の意義・課題についての一考察—現代における芸術文化の社会的役割—」、『Life-Design REPORT』147 号、第一生命経済研究所ライフデザイン研究本部、2003、26-35 頁

坂本有理・佐藤李青・大内伸輔・芦部玲奈 編著、『アートプロジェクトのつくりかた「つながり」を「つづける」ために』、フィルムアート社、2015

松尾豊、「パブリックアートの展開と到達点 アートの公共性・地域文化の再生・芸術文化の未来」、水曜社、2015

福武総一郎+北川フラム、「直島から瀬戸内国際芸術祭へ—美術が地域を変えた」、現代企画室、2016

小川希 編、「アートプロジェクトの悩み 現場のプロたちはいつも何に直面しているのか」、フィルムアート社、2016

新見隆・伊東正伸・加藤義夫・金子伸二・山出淳也、『アートマネジメントを学ぶ』、武蔵野美術大学出版局、2018

宮本結佳、『アートと地域作りの社会学 直島・大島・越後妻有にみる記憶と創造』、昭和堂、2018

文化庁、「多様なニーズに対応した美術館・博物館のマネジメント改革のためのガイドライン」、2018